

シノドスへの歩み みことばと共に 年間第十四主日C年

小西広志

2022年7月3日

はじめに

東京教区の皆さん こんにちは。教区シノドス担当者の小西広志神父です。今日は2022年7月3日年間第十四主日となっています。今日の朗読の箇所をシノドスの教会の観点から読んで味わってみましょう。

エルサレム、乳房

今日の第一朗読は『イザヤ書』の最後の部分から採られています。この『イザヤ書』66章では未来のビジョンが語られているわけです。まず、10節にあるエルサレムという表現に注目してください。これは単なる地名を指す言葉を超えた抽象的な意味がこめられています。神さまがおられ、救いが実現している場所。それがエルサレムです。『ヨハネの黙示録』ではそれを「新しい天と地」と呼びました。また「新しいエルサレム」が天から降るとも表現しました（黙21章9-10節参照）。エルサレムには喜びと楽しみがあふれます。ですから今日の朗読では「喜び」（サーマハ）と「楽しみ」（ギール）という言葉が使われています。

エルサレムを通してなされる祝福を11節では「乳房」と表現しています。ヘブライ語で「シャド」と言うそうですが、ある聖書の研究者たちはこの「乳房」（シャド）は「全能」を意味する「シャッダイ」と関連するかもしれないとします。乳房からお乳は赤ちゃんにとって生きいくために必要なものです。お乳を通して赤ちゃんは母親と結ばれていきます。ヘブライ語で「全能の神」は「エル・シャッダイ」と言いますが、これは「乳房の神」ではないかと主張する人々もいます。母がお乳を与えることで喜びを感じるように、神さまも与えることを何よりも喜びとなさる方だからです。乳房は豊かであり、飲んで飽き足りないほどの祝福なのです。

焼き印

イエスさまの「焼き印」はギリシア語では「スティグマ」の複数形「スティグマタ」が使われています。焼き印は主人が奴隷に焼きこめて押すしるしです。このしるしでどの主人の所有であるかが分かるようになります。ただ、ここでなぜ複数形が使われているかは疑問です。奴隷を示す「焼き印」はいくつも押すものではないからです。そうしますと、キリストのために受けた多くの苦難によって、たくさんの傷痕がパウロには刻まれていたと考えた方がよいのではないのでしょうか。こうして、キリストによってたくさんの「焼き印」、すなわち傷痕を受けて、パウロはキリストの証人となるのです。

この家に平和

福音朗読ではイエスさまの厳しい言葉が目につきます。これらの言葉を内容から分けて考えてみましょう。まず、使命をより完全に果たすための心がけに関する指示があります。七十二人がなによりもしなければならぬのは働き手が与えられるように神さまに祈ることです。その神さまに信頼しているからこそ、財布も袋も履物も持っていつてはなりませんし、使命を果たすために儀礼的な挨拶で時間を無駄にしてはなりません。派遣された目的は食べたり飲んだりするものではありませんから、よくしてくれる家を探して渡り歩いてはなりません。ただ出されたものを食べるべきなのです。

次に、七十二人の使命についての指示があります。すべて「言いなさい」という指示です。七十二人がすべきは平和と神の国を語ることなのです。病人を癒やすのも「神の国が近づいた」ことを言うためです。「この家に平和」と告げる。そして「神の国は近づいた」と宣言することがイエスさまから彼らに与えられた使命となります。

そうしますと、17 節にある「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します」という帰ってきてからの七十二人の喜びようは、どこかイエスさまの意図から外れたところで喜んでいることに気づかれます。それでも、イエスさまは怒らないですね。それどころか 20 節で「悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」と諭しています。このようなところがイエスさまのおやささだと思えます。

まとめ

今日の福音朗読の 5 節の箇所を岩波書店の翻訳で読んでみると次のようになります。「ある家に入ったら、まず言え、『この家に平安 [あれ]』。」「あれ」は角括弧で [あれ] となっています。翻訳者が補った言葉です。ですから直訳調にすると「この家に平和」となります。平和はギリシア語では「エイレネー」です。これはヘブライ語の「シャローム」の訳です。「シャロームは」は完全、充足の意味があります。ですから、「シャローム」が意味するのは争いがないようにという意味だけではありません。神さまからいただくいのちが隔々にまで行きわたりますようにとの意味になります。つまり、これは祝福の言葉です。

そうしますと、今日の第一朗読とのつながりが見えてくるのではないのでしょうか。つまり、第一朗読も「乳房」という言葉で祝福を描いていました。それは母親と子どもの関わりあいの中に生まれる祝福の関係です。福音ではそれが「平和」、すなわち「エイレネー」、「シャローム」で表されます。イエスさまから遣わされる人々は「シャローム」と言って、祝福を与える使命があるのです。

最後に、今日の福音で「御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に使わされた」（1 節）とあります。七十二人は先に遣わされた者、先遣者です。英語で言うところのヘラルド（herald）です。七十二人が「シャローム」、すなわち平和を告げて、その後で「シャローム」そのものである方がやって来るのです。こうして、イエスさまを迎えた家、人々は新しく創造されていきます。

それではまた来週。